

第6章 総括

3年間に及んだ福光浅利道路の発掘調査では高丸遺跡と下和田遺跡の2遺跡の調査を行ったのみである。第2章第4図で示したように、近隣には古くから存在がわかっていた遺跡や最近になって調査が行われた遺跡が位置している。福光浅利道路の発掘調査を終了するにあたり、今回調査した遺跡がそれぞれの時代にどのように位置づけることができるのか示したい。

第1節 遺跡の位置づけ

【縄文時代】

高丸遺跡では縄文土器は出土しなかったが、磨製石斧や黒曜石製石鏃が出土している。近隣では尾浜遺跡から縄文時代後期の土器が、埋築遺跡から縄文晩期の土器が出土した。

【弥生時代】

高丸遺跡では弥生時代後期の土器がわずかに出土した。近隣では埋築遺跡から弥生前期の環濠の可能性のある溝の他、弥生前期～中期の土器を確認している。波来浜遺跡では弥生中期と後期の貼石墓を、高津遺跡では弥生後期の竪穴建物や水場遺構、溝を確認した。高津遺跡と埋築遺跡は約500m離れた位置にあり、高津遺跡と波来浜遺跡は約2km弱離れていることから、波来浜遺跡が単独で存在したと考えるよりも、やや距離はあるものの高津遺跡や埋築遺跡の墓域として波来浜遺跡を想定することができる。波来浜遺跡は南からの眺望を意識した可能性が指摘されており、南に位置する高津遺跡との関連が示唆される（江津市2012、15、16頁）。

【古墳時代】

高丸遺跡では古墳時代前期の土器が少量出土した他、谷部から古墳後期の須恵器模倣土師器の坏が出土した。下和田遺跡では古墳後期末の土器溜の他、手捏土器が出土した。土器溜は須恵器の甕や高坏、脚付壺で構成されており、祭祀の様相が強いことがうかがえる。

近隣では、高津遺跡から古墳中期の竪穴建物や土器溜、粘土採掘坑、古墳中期～後期の土器が出土している。高丸遺跡の須恵器模倣土師器、下和田遺跡の祭祀的な遺構は、高津遺跡との関連で考えることのできるものであり、高津遺跡の外縁に位置する遺跡としての位置づけができる。

【奈良・平安時代】

高丸遺跡では炭窯を確認した。下和田遺跡では掘立柱建物やピットを確認し、奈良・平安時代の土器が出土した。特に平安時代の土器が多い。墨書土器や円面硯といった役所に関連する遺物がないことも特徴である。

近隣では隣接する波来浜遺跡で平安時代の土器が多く出土したことに加え、石帯（巡帯1、丸軀4）が火葬骨とともに出土した。波来浜遺跡は下和田遺跡と同時期に存在したと考えられる。下和田遺跡の前面には波来浜川が流れていることから、谷部と川を挟んだ砂丘上に集落や役人を葬った墳墓が存在していたことになる（江津市2012、16頁）。高津遺跡は古墳時代に比べて遺構や遺物の量はかなり少ないが、「郡」をへら書きした須恵器が出土している。この他尾浜遺跡、大堀遺跡、今井城跡でこの時期の土器が出土している。都治農協裏遺跡では土器に加えて軟質の布目瓦が出土している。墳墓では古墳後期末に遡る可能性があるが、佐古ヶ丘横穴墓群で出土した土器の多くは奈良時代に属する。

下和田遺跡から1～2kmの範囲に遺跡が多く見つっている（第93図上）。時期は奈良時代後半から平安時代にかけて存続するものが多い。波来浜遺跡からは須恵器だけではなく土師器の甕や土製支脚、移動式竈、甑などの生活用具が出土しており、下和田遺跡と共通する点がある。また、量は少ないが高丸遺跡でも似た傾向がある。下和田遺跡出現の背景として、砂丘上に位置する垂水遺跡（大田市静間町）と砂丘が隣接するという点では共通する要素を指摘することができる。前述した墨書土器や円面硯といった遺物がない特徴に加え、下和田遺跡から約400m南東に県道221号川平停車場線があるが、この道は「古代山陰道」の可能性が指摘されている（神2010、29頁、関2015、185頁）。設置時期の問題はあるが、「古代山陰道」の築造に関する遺跡として想定することもできる。

【鎌倉・室町時代】

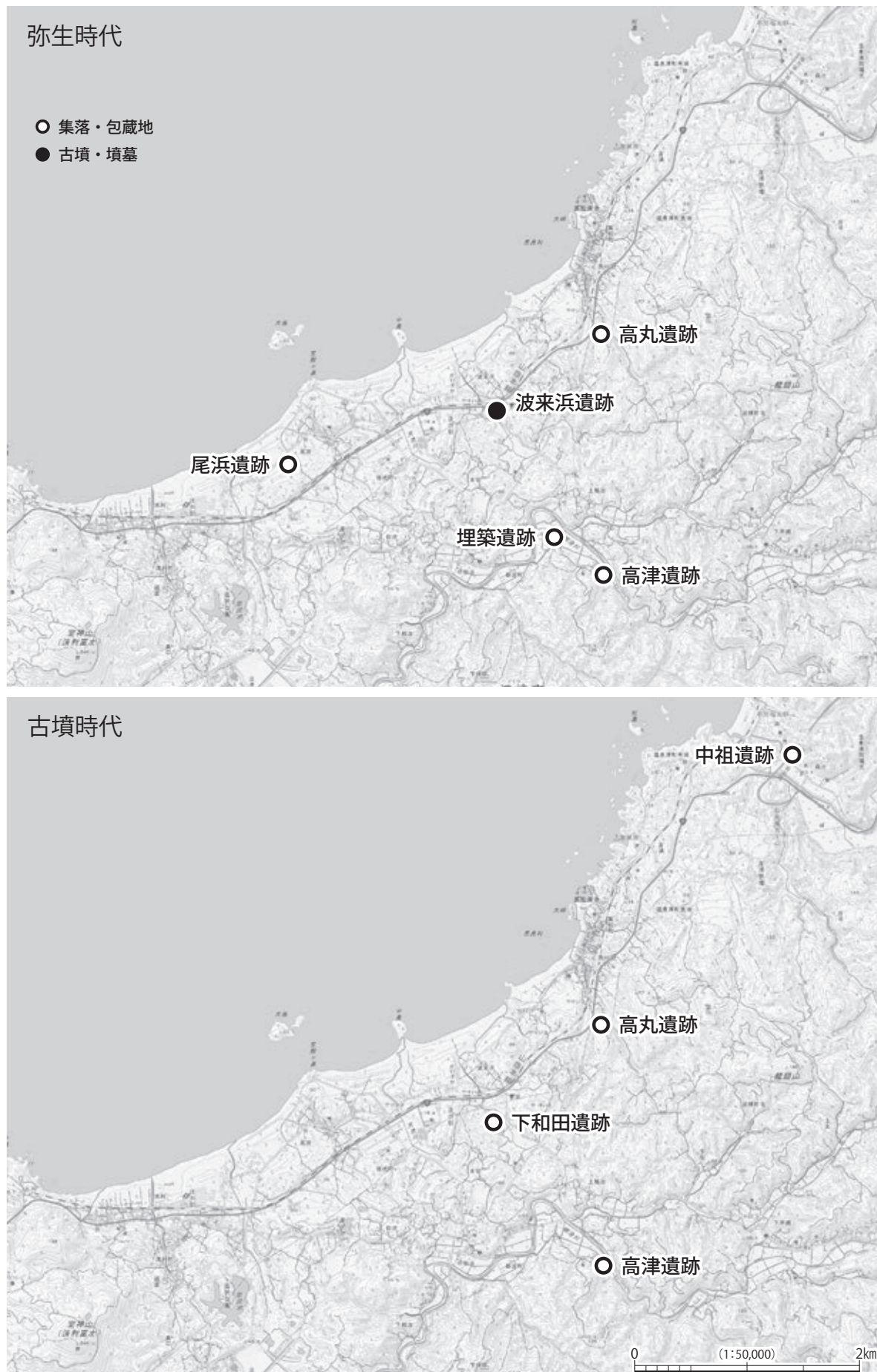
高丸遺跡では谷部から鎌倉・室町時代の土器がごく少量出土した。下和田遺跡では加工段、石列や集石土坑、SD01溝がある他、輸入陶磁器や中世の土師器が出土した。遺構・遺物の存在は少なく、当時は集落の縁辺部や山林の可能性が高い。近隣では埋築遺跡から掘立柱建物10棟と土坑墓を確認している他、波来浜遺跡では900枚以上の古銭が麻袋の中から出土した。

高丸遺跡では砂丘の砂層を確認した。時期は室町時代の可能性がある。波来浜遺跡の報告書では砂層の範囲を示しているが（江津市2012、28頁第1図）、倉谷川沿いを遡る形で砂丘が広がっていたと考えられる。また、下和田遺跡では砂層を確認できず、下和田遺跡の部分までは砂丘が及んでいないことが明らかになった。さらに、下和田遺跡と波来浜遺跡との間には後背湿地が位置していた可能性が高い（江津市2012、12頁）ことが明らかになった。

第2節 遺物の検討

下和田遺跡では総点数約21,200点、総重量約500kg強の土器が出土した。高丸遺跡では総点数1,365点、総重量約18.7kgの土器が出土した。これらの遺跡から出土した土器量を大田市鯛渕遺跡、垂水遺跡、御堂谷遺跡、江津市森原下ノ原遺跡と比較する。

- ・下和田遺跡では須恵器の全体に対する甕の比率が点数で約2割、重量で約3割強に対し、垂水遺跡では2～3割、鯛渕遺跡では甕と壺が約4割、御堂谷遺跡では点数が2割程度であり、同様の傾向を示す。森原下ノ原遺跡では須恵器の甕が66%と高く中型の甕を保管した施設の存在を想定している（島根県2022、184頁）。
- ・下和田遺跡では須恵器と土師器の点数比率は須恵器が2割前後であった。高丸遺跡では須恵器が1割5分程度、鯛渕遺跡では須恵器が1～2割程度と似た傾向を示す。垂水遺跡ではやや須恵器の比率が高く4割弱、御堂谷遺跡では須恵器の比率が8割を越えていた。
- ・下和田遺跡の土師器の甕は厚手のものが多いが、中には薄手のもの、焼きがよく薄手のもの、1mm前後の鉋物を多く含むものがあった。また、細片のため図示しなかったが、外面にタタキ痕を残す甕がE3グリッドの3層からのみ出土した。タタキ痕を残す甕は江津市飯田C遺跡（島根県1997）、古八幡付近遺跡（島根県2000）、大田市中祖遺跡（島根県2008）、邑南町輪之内遺跡（羽須美村2004）、順庵原B遺跡（瑞穂町2000）、沢陸遺跡（瑞穂町1998）、美郷町清源那遺跡（石見町1998）で出土している。須恵器の小型の壺（第37図127）とあわせて、中国山地山間部との交流をうかがうことができる。
- ・下和田遺跡では多数の土製支脚が出土し、高丸遺跡でも土製支脚が出土した。一方移動式竈は下



第 92 図 弥生・古墳時代の浅利地区



第 93 図 奈良・平安時代、鎌倉・室町時代の浅利地区

- 和田遺跡で数点の出土を確認するにとどまった。島根県東部では土製支脚と移動式竈、甗形土器はセットで出土することが一般的であるが、下和田遺跡では移動式竈が少ないことが注目される。
- ・甗の取っ手には大型のもの、小型のもの、中ほどで大きく屈曲するもの、横に長いものなどがある。時期差や用途の違いが想定できるが、今回の報告では指摘するにとどめる。
 - ・下和田遺跡と高丸遺跡で出土した須恵器約 3,000 点について、本報告ではその生産地や周辺の遺跡出土須恵器と比較検討を行うことが十分にできなかった。今後の課題としたい。

【参考文献】

- 岩橋孝典 2019「古墳時代後期の炊爨文化からみた地域相 ― 出雲西部地域と石見東部地域を事例として ―」島根県古代文化センター編『国家形成期の首長権と地域社会構造』島根県古代文化センター研究論集第22冊 415-429
- 石見町教育委員会 1998『清源那遺跡』石見町文化財調査報告書16
- 大田市教育委員会 2017『鯛渕遺跡』
- 江津市 1973『波来浜遺跡発掘調査報告書 ― 第1, 2次緊急調査概報 ―』
- 江津市教育委員会 2002『埋築遺跡』都治地区県営ほ場整備事業に伴う発掘調査報告書Ⅰ
- 江津市教育委員会 2005『高津遺跡』都治地区県営ほ場整備事業に伴う発掘調査報告書Ⅱ
- 江津市教育委員会 2012『波来浜遺跡 ― 保存・活用のための確認調査報告書 ―』
- 島根県教育委員会 1997『石見の城館跡』島根県中近世城館跡分布調査報告書第1集
- 島根県教育委員会 1997『一般国道9号江津道路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ 嘉久志遺跡・飯田C遺跡・古八幡付近遺跡』
- 島根県教育委員会 2000『一般国道9号江津道路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ 神主城跡・宮崎商店裏遺跡・古八幡付近遺跡・横路古墓』
- 島根県教育委員会 2008『中祖遺跡 ナメラ迫遺跡』一般国道9号(仁摩温泉津道路)建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書1
- 島根県教育委員会 2019『垂水遺跡 松林寺遺跡 庵寺石塔群』一般国道9号(静間仁摩道路)建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書8
- 島根県教育委員会 2019『御堂谷遺跡 諸友大師山横穴IV群1号穴』一般国道9号(大田静間道路)建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書3
- 島根県教育委員会 2022『森原下ノ原遺跡 1～3区 1. 古代～近世編』一級河川江の川直轄河川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書4
- 神 英雄 2010『柿本人麻呂の石見』自照社出版
- 関 和彦 2015『古代石見の誘い道 人麻呂と神々と道』今井出版
- 羽須美村教育委員会 2004『輪之内遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書』羽須美村埋蔵文化財調査報告書第5集
- 藤岡大拙他編 1980『日本城郭体系第14巻 鳥取・島根・山口』新人物往来社
- 瑞穂町教育委員会 1998『沢陸遺跡発掘調査報告書』瑞穂町埋蔵文化財調査報告書第22集
- 瑞穂町教育委員会 2000『町内遺跡発掘調査報告書』瑞穂町埋蔵文化財調査報告書第23集